



普段できていることしかできない 自分たちで考え行動し、防災力を高めよう 防災士に学ぶ災害への備え

えいよう ゆきこ きた まさあき まつおか ゆみ
防災士 永栄 由記子さん・北 正彰さん・松岡 由美さん

地震や風水害などの災害に備え、地域で啓発や訓練に打ち込む防災士の皆さん。区民への助言や目標を聞きました。

自宅は家具倒壊を防ぐ工夫を 避難所へは水・食料・毛布持参で

—— 日頃の活動をもとに区民に助言を

北 避難所に駆け込めば、何でもそろっていると思いがち。公的支援には限りがあるため、できれば当面の間の水と食料、毛布を持参したい。備蓄するペットボトルの飲料水も、重たい2ℓ入りは自宅用、軽くて持ち出しやすい500ml入りは避難用と分けて保管しておく便利です。

永栄 自宅に防災グッズを備蓄しても、地震が発生した際、倒れた家具で下敷きになると生命の危険につながりかねません。家具を留め具で固定したり突っ張り棒で補強するなど、住まいの安全なシェルター化を心がけてください。

松岡 災害時の避難や救助行動は、普段できていることしかできません。たとえばひとりで避難することが難しい人には、支援策として、避難所の開設場所をご本人に知らせています。また、毎月の散歩コースに避難所を組み込み、近所の方に「いざという時は一緒に逃げてください」と合同の避難を要請するなど、実践的な訓練につなげています。

「子どもが変われば親が変わる。 親が変われば地域が変わる」

—— これからの目標を聞かせてください

永栄 平日の昼間に災害が起こった場合、働く大人や地元にはいない大学生に代わって、地元の中学生たちに救助活動の担い手としての期待が高まります。子どもたちが地域の人たちと交流しながら防災に関して学んでいける講座を開設したい。

松岡 「子どもが変われば親が変わる。親が変われば地域が変わる」——を、防災のキーワードに掲げています。地域防災を担う子どもたち向けの啓発活動を続けていきたい。自助、共助、公助のバランスの良い防災力の向上が目標です。

北 地域が違えば災害の危機感に濃淡が出てしまう。2町会ぐらいで少人数の勉強会を開き、防災の専門家を招いてしっかり見識を深めたい。防災には危機感が不可欠と聞くと重苦しい印象がしますが、固定観念にとらわれずに新しい発見ができるのは楽しいことですよ。



「自分たちで考えて行動し、地域の防災力を高めましょう」と意気込む防災士の皆さん。
左から永栄由記子さん、北正彰さん、松岡由美さん

● 防災士 ●

防災士とは、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得した人材で、日本防災士機構が認証する資格です。

詳しくはこちら
日本防災士機構ホームページ



問合せ 政策推進課3階 35番窓口
☎6694-9842 FAX 6692-5535

